

(個別研修) 菊井 妙子

研修テーマ：①子供のリハビリや治療の実際について学ぶ

②成長段階に合わせた看護師の支援方法と家族への支援の実際について

③病院で働く多職種とのチーム連携について

研修先：National Children's Hospital (ベトナム ハノイ)

研修日：6月12日～6月15日

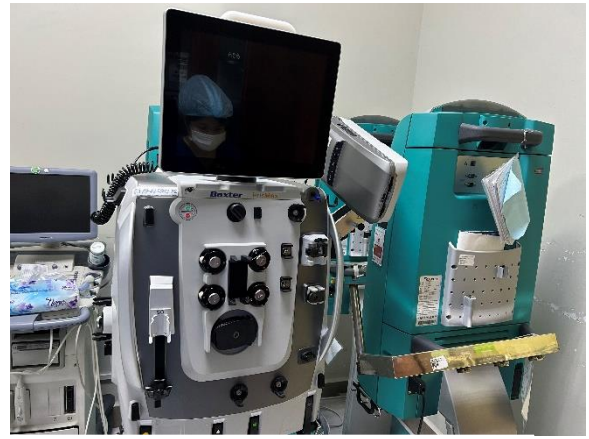
目的：①Pediatric Intensive Care Unit に訪問し、治療の実際について学ぶ

②家族への支援について

③多職種連携について

内容

- ・PICU (Pediatric Intensive Care Unit) 入室対象者は、重症疾患(急性呼吸不全、ショック、敗血症、急性腎傷害、急性脳症、多発外傷、心停止等)や、手術後の重症例(小児外科、脳神経外科など)である。
- ・5部屋あり、1部屋に8人が入室するオープンフロアである。そのうち1部屋は感染症部屋となっている。状態が落ち着くと廊下をはさんで反対に個室があるため、そちらへ移動する。(個室では家族の付き添い可能)
- ・小児集中治療医20人、看護師45人のチームで管理しており、そして各科のDrとの連携が治療には必要になってくるとのことであった。毎朝の回診はこのチームで行っている。
- ・今年は4月からRSウィルスの流行が顕著で、人工呼吸器が必要となる(肺炎・呼吸不全を起こして)乳幼児数が増えていたとのこと。
- ・リハビリについては(離床や呼吸リハビリ、四肢のROM運動など)看護師が行っている。(院内に理学療法士はいるが、人数が不足していることと、コロナ対策でPICU入室者を限定しているため、看護師が主導で行っている)重症患者についてはDrの協力のもと、リハビリをどのように進めていけばよいか、連携し行っている。(腹臥位などチームで協力し行っている)PT・OT・STなどは病棟や外来で介入する。(患者の状態が落ち着いてから)PICUでどのようにリハビリを進めていたか申し送りはきちんと行い、次につなげるようにしているとのことであった。
- ・新生児に対しては母親に搾乳を依頼、PICUへ届けてもらい胃管より注入する。これは、母の産後の回復を助ける事になり、搾乳をすることで母となった喜びを忘れないようお願いしている。家族の面会は日中に1時間設けてあり、この時に子供の様子を伝え、家族の思いを聞き不安に思っていることなど感情の表出を支援している。
できる限りで児に触れてもらいスキンシップを大事にし、可能であれば抱っこ介助も行っている。



PICU で使用されているさまざまな機器：回路組み立ては看護師が行っている

研修日：6月16日

目的：外来を見学する

内容

- ・対象患者は16歳まで。
- ・外来に1日約4000人の受診あり。外来診察室も多く1日で4000人を診ることができる。
- ・外来スペースは広く椅子も多数設けてあるが、それ以上に患者や家族が多い。
- ・売店や食事スペースは敷地の至る所にある。外や屋内には子供が待ち時間に遊べる遊具なども多数揃えてあった。



屋外・屋内ともに遊べるスペースも広い



外来の様子